

No. 1556

自然に親しむ

— 箱 根 —

「自然に親しむ運動」が7月21日から8月20日まで全国で行なわれています。

神奈川県箱根では7月22日「旧東海道の自然について考える」催しが地元の自然保護団体を中心に横浜、川崎などから120人が参加して行なわれました。

杉並木の街道を歩きながら地元の先生から現在の杉並木の状態の説明を聞いて自然の保護の大切さを学びました。

石畳の坂道では昔の人の山越えの苦勞を体験。久しぶりの運動に汗もさわやか。

各地に先立っての行なわれたこの行事は参加者に自然を尊び、自然を学ぶ心を培ったようです。

夏に燃える

— 相馬野馬追 —

梅雨明けと同時に猛暑到来の福島県相馬地方。

7月23日から25日まで開られた相馬野馬追い祭。

相馬市の祖、平将門が軍備増強のため下総国、今の千葉県で野馬を放ち、兵がこれを追って演習したのが始まりで相馬地方に移ってからこの行事は続き、今年で1,050年目といわれています。

原町市ひばりヶ原では5万人の観客を集めて甲冑競馬、神旗争奪戦が行なわれました。

各自の紋章を旗指し物にして背中にひらめかせて一周1,300メートルを駆けめぐります。

観客も騎馬武者の鮮やかな手綱さばきに暑さを忘れて見入っていました。

つづいて呼物の神旗争奪戦には戦後最高の540騎が出馬。

青空から2本のご神旗が舞いおちてくと2、30キロもある甲冑に身をかためた騎馬武者が殺到。

ご神旗を手にした騎馬武者は得意気に本陣へと駆け上ります。

この相馬野馬追いと共に東北の夏は深まって行きます。